

● 事業名

和歌山県由良町

地域課題解決型 事業活動プラン コンテスト

● 主催 由良町 ● 協力 和歌山大学

● 実施内容

人口減少と更なる高齢化が進行するなか、地場産業を活性化し安定した雇用創出・地域経済の浮揚が由良町にとって大きな課題となっている中で、「若い学生のアイデアを広く募集し課題解決につなげていきたい」という目的で本コンテストを開催した。

1. 応募テーマ

・A部門…「由良町の旅館の宿泊客を増やす」

観光による地域活性化、とりわけ宿泊客数増加が狙い。独り勝ちの宿泊業の新規開発といった方向性ではなく由良町の既存宿泊業も継続し連携や波及効果を及ぼすプランを期待する。

・B部門…「由良町の高産物の売上高を増やす」

豊富な種類の海産物が捕れる由良町だが、流通段階でのマンパワー（例えば出荷・販売を専門にする担い手の出現など）が充実すれば売上アップが見込まれる。加工・マーケティング分野も含め水産業のパワーアップを期待する。

2. 応募資格：全国の大学・大学院・高専・専門学校生（個人または5人までのチーム）

3. 募集期間：2021年7月1日（木）～2021年10月8日（金）

4. エントリー数：総数39件

5. 一次書類審査：15チームが一次審査を通過

6. 最終審査会：一次審査通過の15チームによる最終審査会を2022年2月5日（土）にオンライン開催

審査委員 (敬称略)	由良町長	山名 実
	由良町観光協会 会長	東 宏美
	由良町漁業振興協議会 会長	山口 太志
	由良町商工会 会長	濱出 吉高
	紀陽銀行 地方創生推進室長	吹田 和彦
	島根県立大学人間文化学部 講師	竹田 茉耶
	和歌山大学経済学部 教授	柳 到亨



2022.2.5 最終審査会参加者の記念撮影

7. 表彰式：2022年3月6日（日）に入賞5チームを表彰（オンラインによる表彰式を開催）

【最優秀賞】（1チーム）

「由良町でしか味わえない！オリジナルみかんサウナ（A部門）」

和歌山大学 滝下連太郎・神戸大学 吉野実

【優秀賞】（4チーム）

「大自然を巡る大人の冒険！（A部門）」

和歌山大学 北島 沙佑紀・田口屋紀章・田中琉太・西川輝平・畑中陽菜

「ゆら町いいとこ、継ぎたいとこ（A部門）」

大阪市立大学 林亮多・山下侑希・野田音羽

「釣り＆仕事による新事業『由良ケーション』（A部門）」

高千穂大学 加藤あかり・小川太進・川又文哉・長根虎男・依田知龍

「由良町特産品の定期購入『由良スク』（B部門）」

和歌山大学 竹本彩乃

最優秀賞チームと由良町長の記念撮影
(2022.3.6表彰式)

（※敬称略）

● 事業名

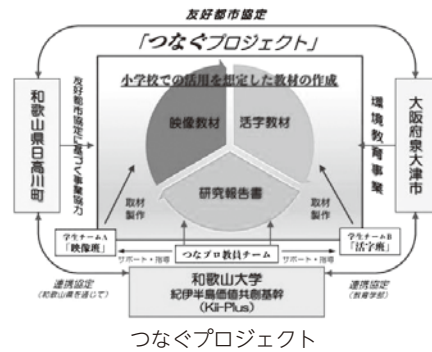
つなぐプロジェクト

● 実施内容

2016年度から継続的に実施してきた「体験教育旅行&夏学習」事業（通称「夏旅」）について、2021年度においては紀伊半島価値共創基幹（Kii-Plus）事業「つなぐプロジェクト」として実施した。本プログラムは、大阪府泉大津市の「環境教育事業」として研究委託されているもので、泉大津市とその友好姉妹都市である和歌山県日高川町の友好関係を「教育」を通じて持続的に発展させることを目的としている。今年度においては、当初「夏旅」にあった趣旨を踏襲しつつ、ポストコロナにおける持続可能な発展（SDGs）を見据えた教材作成に取り組んだ。

作成する教材は大きく二つであり、一つは、学校を始め広く教育の場で活用が可能なテキスト（活字教材）、もう一つはそのテキストに即したビデオ（映像）教材である。また、企画、取材、編集など、学生による一連の活動とこれに連なる指導について、大学としての教育活動として位置づけ、事業の本質としての地域貢献活動と共に、最終的にフィールド研究として研究報告書を併せて作成することとした。本年度のプロジェクトは、上図のように、「テキスト作成」、「映像作成」、そしてこれらを俯瞰的に記録考察する「研究報告書」の3つのアウトカムによって構成される。詳細についてはそれぞれの成果物を参照のこと。

作成する教材は大きく二つであり、一つは、学校を始め広く教育の場で活用が可能なテキスト（活字教材）、もう一つはそのテキストに即したビデオ（映像）教材である。また、企画、取材、編集など、学生による一連の活動とこれに連なる指導について、大学としての教育活動として位置づけ、事業の本質としての地域貢献活動と共に、最終的にフィールド研究として研究報告書を併せて作成することとした。本年度のプロジェクトは、上図のように、「テキスト作成」、「映像作成」、そしてこれらを俯瞰的に記録考察する「研究報告書」の3つのアウトカムによって構成される。詳細についてはそれぞれの成果物を参照のこと。



● 事業名

半島地域における 交流・協働のためのプラットフォームを考える -人と地域が育つ場を求めて- (半島フォーラム)

- 日時 2022年2月19日（土）14：00～17：20
- 場所 Zoom オンライン
- 参加人数 50人
- 主催 和歌山大学静岡大学
- 共催 和歌山大学

● 概要

本フォーラムは、静岡大学の呼びかけで本学が共催。全国国立大学生涯学習系センター研究協議会での研究交流等を通じて、共通の問題関心を共有し実施された。伊豆半島・紀伊半島という半島地域を有する静岡・和歌山両県では、特に半島先端部で過疎化・少子高齢化が進行しているが、それぞれ地域固有の資源を活かし、地域が抱える課題の解決をはかる多様な活動が行われてきている。望ましい地域・くらしのあり方に近づくために、それぞれの取り組み事例に学び、情報共有や連携をはかりながら、地域づくりの拠点を構築することが求められている。こうしたことから、本フォーラムでは、伊豆半島と紀伊半島で展開するさまざまな地域課題に対する取り組み、地域と大学の新たな連携・協働の事例に学び、交流・協働のためのプラットフォームのあり方を検討することを目的として実施した。本学からは、学長・基幹長から「和歌山大学紀伊半島価値共創基幹について」、藤田武弘教員から「食農分野における研究の社会実装化と人材育成にむけた教育への展開」、宮定章特任教員から「紀伊半島における災害レジリエンスの取り組み」についての報告がなされ、その後全体協議が行われた。



開催チラシ

事業に関するお問い合わせ

価値共創オフィス

E-mail : region@ml.wakayama-u.ac.jp
URL : <http://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/academic-results/regionalpj/>

